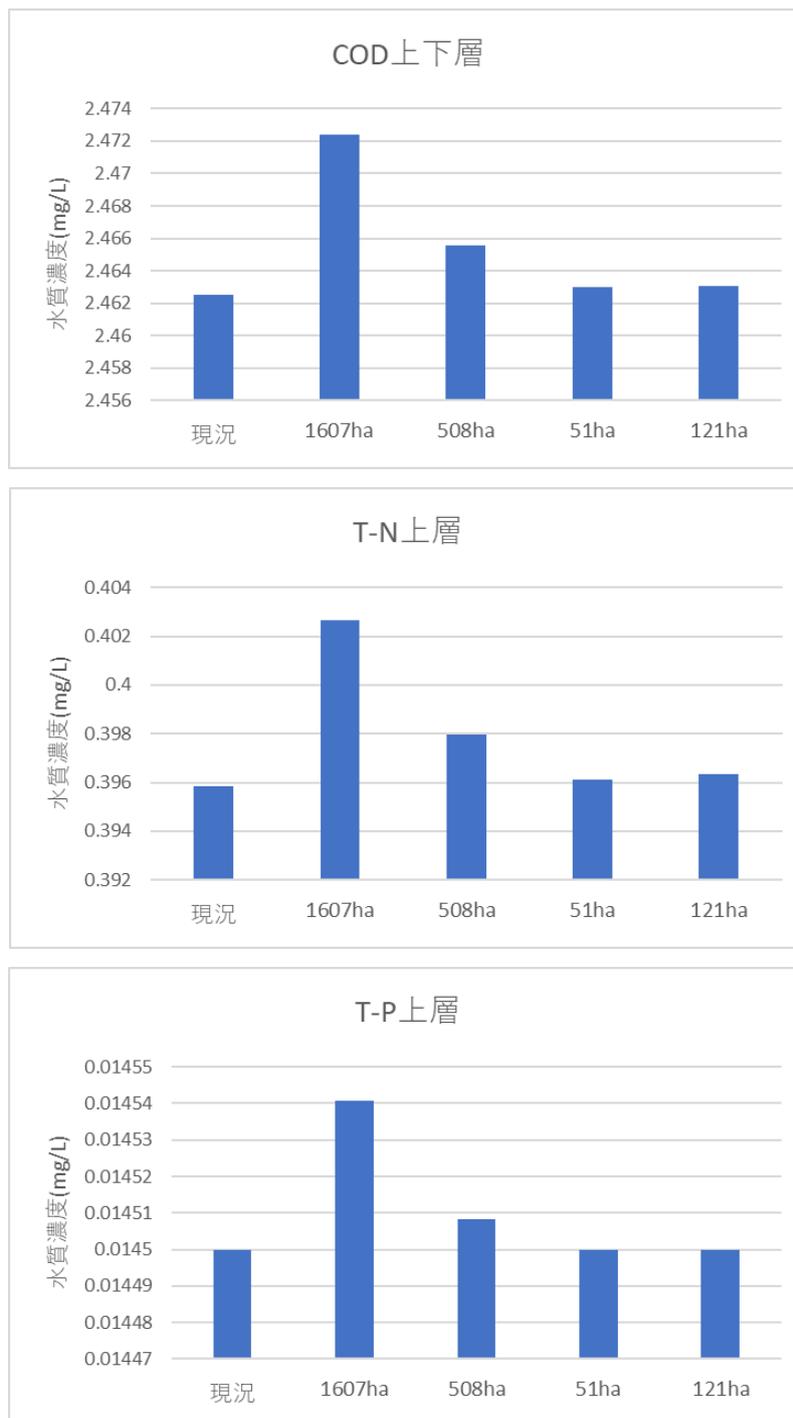


再生可能エネルギー等の開発に伴う水質への影響に関する計算結果

4 ケースの面積について、現況の北川流域の森林（間伐あり）を道路に変えた場合の水質計算を実施した。現況年は平水年である令和 2 年度とした。負荷量の設定方法については後述する。

その結果、森林から道路への転換面積が 51ha、121ha の場合は、水質濃度の変化は小さかったが、転換面積が 508ha、1607ha の場合は、水質濃度が上昇する傾向がみられた。



負荷量の設定方法について

釜房ダム貯水池の計画策定において用いている市街地・道路、森林の原単位は以下に示すとおりである；

	COD(kg/ha/年)	T-N(kg/ha/年)	T-P(kg/ha/年)
市街地・道路	55.07	4.76	0.220
森林（間伐なし）	79.07	5.74	0.280
森林（間伐あり）	48.70	1.46	0.170

ここでは、森林（間伐あり）の土地を市街地・道路に転換するとしたため、各項目の原単位の差分だけ負荷量が増加するものとして設定した。